

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	武雄市立東川登小学校
-----	------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 「学力向上」としては、全職員がそれぞれマイプランの目標達成のために授業力向上を目指して努力することができ成果が表れた。 「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかつた子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。「ふるさとを誇りに思う教育活動」の取組は各学年ともに充実した活動を行うことができ、大きな成果が見られた。 「健康・体づくり」に関しては、来年度も今年度と同様に体力向上・食育・防災教育ともに充実を図っていく。 「働き方改革」に関しては、頂いた意見をもとに、今後も更なる業務改善を目指していく。 ICT活用面では、コロナによる学級閉鎖時にリモートでの授業をしたり日常的に学習にタブレットを使う学年が多くなったりするなど、タブレット端末を活用した取組が進んだので、次年度は職員間でノウハウを共有する機会を増やし、教育の質の向上を目指していく。
---------------	---

2 学校教育目標	<p>～地域とともに 学び続ける学校～</p> <p>生き抜く力の育成「やさしく かしく たくましく」</p> <p>心豊かに自ら進んで学びたくましく生き抜く子どもの育成</p> <p>【めざす子ども像】○人の気持ちによりそう子ども ○他者と協働し主体的に学ぶ子ども ○健康な心と体を維持する子ども</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>① 人権が尊重される授業づくりを基盤にして、多様性を認め合う発信型の学校を目指す。</p> <p>② 令和の日本型教育の具現化を図る。</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・ICTを活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。	○「自分の考えを持ち、相手にわかりやすく伝え、相手の考えを理解できた」と答える児童が80%以上。	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で話し合う活動を設定するとともに、タブレット活用による学習の個性化を図る。 ・児童による授業評価を年に2回行う。	B	「自分の考えを持ち、相手にわかりやすく伝え、相手の考えを理解できた」について肯定的な回答をした児童が93%であった。2学期は、ICTを活用し、児童が主体的に他者と協働して学ぶ個別最適な学びの充実を図るとともに授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねた。しかし「自分の考えを持ち、相手にわかりやすく伝え、相手の考えを理解できた」と答えた児童は89%と、中間評価より4%下がった。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童95%以上、「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童90%以上。	・地域の方々や保護者参加型のふれあい道徳を実践し、人権教育との相互充実を図る。 ・児童会を中心としたアルミ缶回収等ボランティア活動をより主体的に実施し、地域の方々や保護者参加型の「ふれあい道徳」を実践し、人権教育の充実を図る。	A	「相手の気持ちを考えることができる」について肯定的な回答をした児童は93%であった。「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は96%であり、子ども達の豊かな心が育っていると考えられる。 ・地域の方々や保護者参加型の「ふれあい道徳」を実践し、人権教育の充実を図る。	A	「相手の気持ちを考えることができる」と回答した児童は95%で、成果指数を達成した。「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童は98%であり、中間評価より2%上がった。しかし、発した言葉が原因でトラブルが発生する事案もあり、今後も相手の気持ちを考える子どもの育成に努めなければならない。	A	・人権教育に取り組んでいたの思いやり等育っていると思う。今後も続けてほしい。	梶原
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「学校は楽しい。」と回答した児童90%以上。	・Q-Uアンケートや生活アンケート、教育相談週間の活用を通して、いじめに対する迅速かつ組織的対応の徹底を図る。 ・たて割り班活動の充実を図る。	B	「学校は楽しい」について肯定的な回答をした児童は89%であり、目標を1%下回っている。「楽しくない」と答えた児童が5%いるので、今後も生活アンケートや教育相談週間を実施し、いじめの未然防止、早期発見の取組強化を図る。 ・縦割り班活動も継続して行っていく。	B	「学校は楽しい」と回答した児童は84%であり、前回の結果を5%上回った。これまで通り生活アンケートや教育相談週間を実施したり、縦割り班活動を行った結果であるが「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童が6%いるので、外部と連携しながら組織的に対応していく。また、毎週水曜日に全職員で気になる子の情報共有会を継続して行い、様々な事案に全職員で対応することができた。	B	・いじめについては今後も注意が必要である。 ・人権教育への取組の成果があるのではないか。	川内
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、育みたい資質・能力を焦点化する。 ・教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実施し、キャリアパスポートを活用する。	・「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒は94%であった。 ・人権教育アンケートで「先生は、自分のことを大切にしてくれている」について肯定的な回答をした児童が93%であった。今後果の「ほめるから、はじめる。はじめる。」のテーマのもと、児童の自己有用感の向上を図り、夢や目標に向かう主体的に挑戦する力を育むよう努め一定の成果が出ている。	A	「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒は94%であった。 ・人権教育アンケートで「先生は、自分のことを大切にしてくれている」について肯定的な回答をした児童が93%であった。今後果の「ほめるから、はじめる。はじめる。」のテーマのもと、児童の自己有用感の向上を図り、夢や目標に向かう主体的に挑戦する力を育むよう努め一定の成果が出ている。	A	「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒は94%であった。果の「ほめるから、はじめる。はじめる。」のテーマのもと、各種体験活動や授業において児童の自己有用感の向上を図り、夢や目標に向かう主体的に挑戦する力を育むよう努め一定の成果が出ている。	A	・夢や目標をもつことは大切である。その思いを育てる教育を行ってほしい。
●健康・体づくり	○地域と一体となった人権教育を進化・発展させる。	○教職員アンケートで「学校と保護者、地域が協働で人権教育に取り組んだことで、人権意識が高まったと感じる」と回答した教職員80%以上	・育てたい子ども像を教職員、保護者、地域の方と共有し、これらを入れた人権教育の視点として学習活動に組み入れる。 ・人権教育計画を「見える化」することで有効活用を図る。	A	・職員アンケートで「学校と保護者、地域が協働で人権教育に取り組んだことで、人権意識が高まったと感じる」について肯定的な回答をした教職員は100%であった。 ・人権教育アンケートで「先生は、自分のことを大切にしてくれている」について肯定的な回答をした児童が93%であった。今後果の「ほめるから、はじめる。はじめる。」のテーマのもと、児童の自己有用感の向上を図り、夢や目標に向かう主体的に挑戦する力を育むよう努め一定の成果が出ている。	A	・職員アンケートで「学校と保護者、地域が協働で人権教育に取り組んだことで、人権意識が高まったと感じる」について肯定的な回答をした教職員は100%であった。学校の人権教育に関する取組を学校だよりや学級だより、HP等で保護者や地域の方に広く発信し、ともに学び合う機会をもつことで成果が得られた。	A	・公開授業日のシンポジウムでは保護者や先生と多様な考えを出し合い交流することができてよかった。	川内
	◎「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	◎食事・健康に関する調査用紙で「健康に良い食事をしている」と回答した児童生徒93%以上	・「早寝早起き朝ごはんアンケート」を実施し、日々の給食指導に役立てる。 ・委員会での給食週間の取組を充実させる。 ・定期的な保健だよりや食育だよりを発行する。	A	・「食育月間」での委員会活動の取り組みや、「早寝早起き朝ごはんチェックシート」での家庭と連携した取り組みを行った。保健だよりでチェックシートの結果の周知を行った。「健康のことを考えて何でも食べるようにしている」について肯定的な回答をした児童は93%であった。「あまりそう思わない」と回答した6年生の児童が18%いたため、栄養教諭と連携して食事の大切さについて考える場を作る。	A	・給食月間や給食週間での委員会活動の取り組みや「早寝早起き朝ごはんチェックシート」での家庭と連携した取り組みを継続した。また、食の大切さや生活習慣についての啓発を保健だよりで年に3回行うことができた。「健康のことを考えて何でも食べるようにしている」と回答した児童は96%となり、中間評価よりも3%増で成果目標を達成することができた。	A	・望ましい食習慣を身に付けるためには、保護者にもっと関心をもたせるようにした方がよい。	鐘ヶ江
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○防災・安全に関する資質・能力を伸ばす取組の充実。	○災害時に自分の命は自分で守ることがまもることが大切であるとする児童が95%以上。	・年間の避難訓練や外部講師を招いての防災教室などを通して児童の防災意識を高める。	A	・地震火災避難訓練は、地域と連携して実施計画できた。消防署員にも来ていただき、充実した訓練になり、自分で考えて避難するという学習ができた。 ・児童アンケートにおいて「災害が起こった時には、自分の命は自分で守ることが大切だ」と肯定的な回答をした児童が98%であった。今後も児童が危機回避能力を身に付ける安全教育を行う。	A	・不審者対応訓練は、関係機関と連携して実施でき、自分で考えることの大切さを学ぶことができた。また、避難経路の見直しについて全職員で考える機会となった。 ・児童アンケートにおいて「災害が起こった時には自分の命は自分で守ることが大切だ」と肯定的な回答をした児童が98%であり、年間を通して防災に対する意識を高めることができた。	A	・防災教育は、訓練時から真剣に取り組む必要がある。	泉
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間を順守する。	・月1回それぞれの職員に自分の勤務状況を示し、勤務時間の縮減を図る。 ・「働き方改革」を推進するための協議の場を年間2回以上設定する。	B	・9月までの時間外勤務平均は、県職員一人当たり月約31時間だった。今後も全職員で声掛けしながら業務の効率化を図る。 ・労働安全衛生委員会の場でも働き方改革に関する話題を出し、働き方改革に向けた有効なアイデアなどを共有することができた。 ・コロナ禍以前の行事等を再開し始めたので、今後カリキュラムの精選が必要である。	A	・11月から1月までの時間外勤務平均は、県職員一人当たり月約27時間中間評価よりも減少した。時間外在校等時間を月45時間、年間360時間以内を心がけることができた職員は100%だった。 ・労働安全衛生委員会を定期的に設け「働き方改革」についての研修を継続した。セルフケアのため、「Smile」を毎回配布して、職員の健康管理を促した。 ・卒業式を含むすべての行事について内容の精選を図ることができた。	A	・花まるタイムを含めて無理をしないようにしてほしい。	教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○ふるさとを誇りに思う教育活動	○ふるさとを誇りに思う教育活動	○東川登町の自慢を答えることができた児童90%以上。	・生活科・総合的な学習の時間と関連させてゲストティーチャーを招くなど、地域の特色を生かした学習の充実を図る。	A	・全体としては、80%の児童が東川登町の自慢を答えることができていた。今後は、低学年児童も地域の「ひとも、この」の良さを感じることで、多忙化のバランスをとながら教育課程に郷土学習を取り入れていく。	
○官民一体型教育	○地域学校協働本部を活用した教育の充実	○地域の方に教わりながらする学習は自分のためになっていると回答した児童90%以上。	・全学年で地域学校協働本部事業計画に基づいた教育活動を意図的・組織的に学習に取り入れて実施する。	A	・「地域の方を招いての学習は自分のためになっている」について肯定的な回答をした児童は95%であり、地域の教育力を生かした学習は根付いている。今後も地域とともに学び続ける学校を目指し、地域との連携を図る。	A	・「地域の方を招いての学習は自分のためになっている」と答えた児童は94%だった。全学年で地域学校協働本部事業計画に基づいた教育活動を意図的・組織的に学習に取り入れて実施することで活動の充実を図ることができた。	A	・学校に行くとき毎回子どもたちから元気をもらうことができた。 ・学校以外の地域の中でよく声を掛けてくれるようになったのでうれしい。	教頭

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・「学力向上」としては、全職員が「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、ICTを活用した授業改善に取り組み学力の定着を目指す授業実践を重ねたが、児童の学力が向上したとはいえない。来年度も継続して授業改善に取り組む。 ・「心の教育」に関しては、生活アンケートや教育相談週間での面談等の取組により、いじめの早期発見、早期対応をすることができた。今後も「学校が楽しい」と答えることができなかつた子どもに焦点を当てて、組織で対応していくことを心がけていく。 ・学校での人権教育に関する取組を学校だよりや学級だより、HP等で保護者や地域の方に広く発信し、ともに学び合う機会をもつことで成果が得られた。本年度の重点①は高評価できる。今後も継続して取り組んでいきたい。 ・ふるさとを誇りに思う教育活動は、生活科や総合的な学習の時間などを通して、地域との交流をしながらふるさとを体験的に学ぶことができていく。今後も、郷土学習や地域人材の活用をしながら持続可能な学習の充実を図っていく。</p>
----------------	---